

電力土木の歴史—第2編 電力土木人物史（その12）

正会員 稲松技術士センター社長 稲松敏夫（技術士）

History of Electric Civil Engineering
— Part 2 History of electric Civil Engineer.

by Toshio Inamatsu.

概 要

筆者は先に第1回～第12回にわたって、電力土木の変遷と、電力土木に活躍した人々を中心に、各河川の水力開発について述べ、その中で電力土木に一生を捧げた人々のうちの代表的人物60名を発掘して、その成果をまとめ得た。さらに10年前からその中60名の人々の業績を詳述し、第2編電力土木人物史として50名（知久清之助、伊藤令二、北松友義、目黒雄平、高桑鋼一郎、久保田豊、内海清温、熊川信之、岩本常次、吉田登、水越達雄、市浦繁、鶴飼孝造、和澤清吉、大林士一、金岩明、大橋康次、山本三男、味桂稔、中村光四郎、浅尾格、永田年、平井弥之助、野瀬正義、畑野正、田中治雄、石川栄次郎、藤本得、村田清逸、後藤壮介、泉悟策、田代信雄、吉田栄延、原文太郎、山家義雄、大西英一、矢崎道美、渡辺時也、東正久、吉田勝英、畠山正、野田和郎、丸山二郎、高橋健、山田勝則、志波勉、小沢章三、山下嘉治、喜多梅記、豊嶋幸次）について発表し、今回はその12として数名を発表する。（明治～昭和期、土木、開発した人）（1分類人物史、2分類 河川、エネルギー）

（I）総括

第1編各河川水力開発の変遷には、11年間にわたり、日本全国及び世界大戦前の朝鮮、中国、台湾、東南アジア、世界大戦後の東南アジア、ブラジル等の開発変遷とその開発に一生を捧げた人物60名を発掘した。

第2編電力土木人物史は10年にわたり、その内50名分をまとめた。

今回はその12として引つづき数名分を調査、発表する。

（II）知り得た成果

（1）電力土木120年の人の流れの変遷

（イ）親分、子分時代から電力会社別地域別の流れ

（ロ）企画、設計、施工管理電力会社直営から、企画、施工管理は電力会社直営、設計は

コンサルタントへ委託に移行した。

（2）親子二代の電力土木屋

①北松（東北電力）②伊藤（電源開発）③知久（東京電力）④山本（中国電力）⑤大西（日本発送電）⑥大橋（北海道電力）など親子二代の電力土木屋が多くいることを発見した。

（3）水力、火力、原子力の変遷

特に120年の電力土木の中70年は水力時代（ダム全盛）70年から85年（15年間）は火力時代、85年から120年（15年間）は原子力時代となり、水力時代の土木屋の活躍の場はダム全盛時代でダムの各タイプの開発に各電力会社が技術を競ったが、火力、原子力時代となって耐震設計、基礎地盤、港湾、取放水、安全審査、環境調査と多元的に活躍の場が拡大した。

（4）世界大戦前の北朝鮮、韓国、台湾、海南島、佛印への電力開発への国際的協力から大戦後の南

米、東南アジア、ヨーロッパへの電力開発への国際的協力へと展開が拡大していった。

(Ⅲ) 人物史 (各論)

(1) 村上 省一



(イ) はじめに

電源開発会社の村上省一、福田克彦、前田実の3氏をまとめるにあたり電源開発(株)堀正幸取締役ほか関係者並びに御家族の方に、資料、写真等をお願いし、それと電力土木人物銘々伝(第11章電源開発)を参考に取りまとめた。お世話になった堀正幸取締役等電源開発(株)の関係者並びに御家族等に心から感謝いたします。

(ロ) 村上省一の年譜

大正12年2月11日東京都で出生
昭和19年3月 東京大学工学部土木工学科卒業
昭和19年4月 日本発送電(株)入社
昭和29年4月 電源開発(株)入社
奥只見建設所勤務
昭和35年4月 奥只見建設所発電所工区主任
昭和37年4月 北山川建設所発電所工区長
昭和39年4月 電源開発(株)水力建設部工事課長
昭和41年4月 同社水力建設部次長
昭和44年4月 同社沼原建設所長
昭和45年4月 同社水力建設部長
昭和47年4月 同社特任参事
昭和50年4月 同社理事
昭和56年3月 同社退任
現在(株)EPCインターナショナル会長

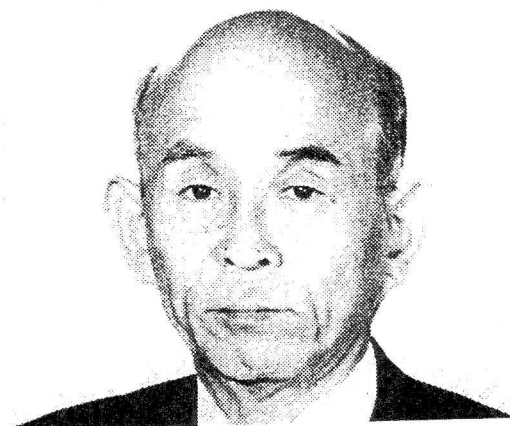
(ハ) 村上省一の実績と人となり

電源開発(株)入社以来約10年に亘り、奥只見、北山川の建設に従事し、特に大規模地下発電所の建設に力を注いだ。部長、理事在任中は奥清津、船明などのプロジェクトを手がけ、特に火山噴出物の推積層上のダムの構築、砂礫層止水への粘土グラウトの採用、下郷の水圧鉄管、斜坑掘削へのトンネルボーリングマシンの採用等、新技術の採用を促進した。

(ニ) 私の村上省一観

私と同年代に電発と北電と会社は異なるが、同じ電力土木技術者の道を歩み、お互いに新技術の採用、施工に御教授を賜った。今改めて感謝する次第である。特に手取川ダム開発事業については手取川第一ダムは電源開発(株)、手取川第二ダム、手取川第三ダムは北陸電力(株)担当と力を併せて共同開発の上、立派に3ダム、3発電所を完成する為に、着工当初の地元あいさつ廻りから、用地補償交渉、工事の適正取進めに力を合せて努力して、立派に完成させた事を今本稿をまとめるに当り、改めて思い起し、村上省一の偉大な協力者として、仕事を共にした喜びをひしひしと感じている筆者である。今後の御健斗を祈る。

(2) 福田 克彦



(イ) 福田克彦の年譜

大正10年2月11日に東京都で出生
昭和21年3月 東京大学工学部土木工学科卒業
昭和21年4月 日本発送電(株)入社
昭和26年5月 東京電力(株)引継
昭和28年4月 電源開発(株)入社佐久間建設所勤務

昭和32年4月 秋葉建設所勤務
 昭和36年4月 電源開発（株）土木計画部土木
 計画課長代理
 昭和39年4月 同社水力建設部設計室主査
 昭和41年4月 同社水力建設部工事課長
 昭和42年4月 同社岩越電力所次長
 昭和43年4月 同社吉野川建設所長
 昭和44年4月 水力建設部次長
 昭和46年4月 新豊根建設所長
 昭和48年4月 水力建設部長
 昭和50年4月 特任参事
 昭和52年4月 監事
 昭和54年4月 退社

(3) 前田 実



(イ) 前田実の年譜

大正14年1月16日東京都で出生
 昭和22年3月 東京大学工学部土木工学科卒
 昭和22年4月 日本発送電（株）入社
 昭和26年5月 東京電力（株）引継
 昭和28年4月 電源開発（株）入社
 土木部土木調査課勤務
 昭和36年 同社大鳥建設所副参事
 昭和38年 同社工事課長代理
 昭和39年4月 七色、小森建設所土木課長
 昭和41年4月 火力部土建課長
 昭和42年 十勝電力所次長
 昭和44年 水力建設部設計室次長
 昭和45年4月 船明建設所長
 昭和48年4月 企画室長
 昭和50年4月 水力建設部長
 昭和53年4月 理事
 昭和57年3月 退社
 昭和57年4月 開発工事（株）社長
 昭和60年4月 開発工事（株）会長を経て現在
 に至る

(ロ) 前田実の業績と人となり

前田実は日本発送電（株）、東京電力（株）、電
 源開発（株）の三会社に勤務して電力土木に一
 生を捧げ、特に大鳥建設所、七色、小森建設所、
 船明建設所等の幹部、さらに企画室長、開発工
 事（株）社長、開発工事（株）会長と電力土木
 界に多大の功績を残して現在御活躍中で誠に功
 績をあげた事は敬服する。特に建設部長在任中、
 下郷の開発に努力した他、企画関係、海外技術
 協力関係等多方面にわたり幅広く活躍した功績
 は大きい。

(ロ) 福田克彦の業績と人となり

福田克彦は日本発送電（株）、東京電力（株）、
 電源開発（株）と3電力会社を通して一生を電
 力土木に捧げた。特に佐久間建設所、秋葉原建
 設所、吉野川建設所等大規模な水力発電所、ダ
 ムの設計、建設工事に現場に挺身して立派な成
 果を納めた。

特に建設部長在任中、手取川の契約等に努力し
 た他、オイルショック後の困難な時代に活躍し
 多大の成果を納めた功績は大きい。

(ハ) 私の福田克彦観

手取川ダムについては、電源開発（株）と北陸
 電力（株）の共同開発としてそれぞれ、電源開
 発（株）が手取川第一ダム、手取川第二ダムと
 手取川第三ダムを北陸電力（株）が担当し、対
 外接渉地元の用地交渉、工事設計、工事管理等
 に協力してそれぞれ成果をあげた事を思い起し
 立派な土木技術者福田克彦の協力を得られた事
 をつくづくこの稿を進めるに当たり、改めて
 思い起している。

いろいろの教示、ご指導、御協力、どうも有難
 うございました。

心から感謝申し上げます。

(ハ) 私の前田実観

私と同時代に電源開発（株）北陸電力（株）と会社は異なるが、同じ水力、火力、原子力の開発に一生を捧げて努力した前田実の実績には頭が下がると共に、いろいろ御指示、御指導、御協力を賜った事を今改めて思い起こして感謝に堪えない。益々の御健闘を祈る

(4) 青木 謙三



九州電力（株）常務取締役時代

(イ) はじめに

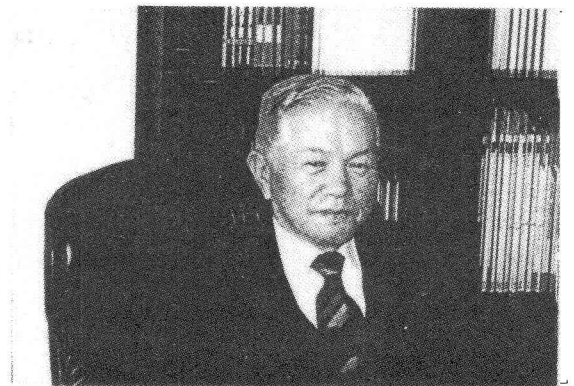
青木謙三をまとめるにあたり九州電力（株）常務取締役田中征夫氏ほか関係者並びに御家族の方に、資料・写真等をお願いし、それと電力土木人物銘々伝（第3章 九州電力）を参考に取まとめた。お世話になった田中征夫常務取締役等、九州電力（株）の関係者、御家族等に心から感謝いたします。

(ロ) 青木謙三の年譜

- 大正14年 1月12日 山口県に出生
- 昭和20年 3月 明治専門学校（機械）卒業
- 昭和23年 3月 九州大学工学部土木工学科卒業
- 昭和23年 4月 日本発送電（株）関東支店入社
- 昭和26年 5月 九州電力（株）に引継
- 昭和32年 1月 九州電力（株）川上川調査所・建設所勤務
- 昭和35年 2月 同社一ツ瀬水力発電所ダム取水口主任
- 昭和37年 3月 工学博士
- 昭和38年 5月 海外電力調査会出向
- 昭和39年 3月 九州電力（株）土木部計画課係長
- 昭和42年 7月 西日本技術開発（株）出向
- 昭和45年 7月 九州電力（株）土木部土木第一課長
- 昭和46年 7月 同社土木部次長
- 昭和48年 7月 同社土木部部長代理

- 昭和52年 6月 同社土木部長
- 昭和52年 7月 同社理事土木部長
- 昭和54年 3月 同社玄海原子力増設準備本部副本部長兼務
- 昭和55年10月 同社玄海原子力増設準備本部副本部長兼務を解かれる
- 昭和56年 6月 同社取締役土木部長
- 昭和58年 6月 同社常務取締役
- 昭和62年 7月 西日本技術開発（株）代表取締役社長
- 平成7年 6月 同社退職
- 平成15年11月14日 78才で逝去。

(ハ) 業績と人となり



西日本技術開発（株）社長時代

(1) 青木謙三は、昭和26年5月九州電力（株）に引継入社するや、直ちに日本で初めて採用したアーチ・ダムである上椎葉ダム設計班の主力メンバーとして活躍した。ダムの応用計算から始まり、ダム・コンクリートの冷却問題、ダム継目のグラウト等の設計施工について指導を受けたと当時の部下原欽五氏（後、九州電力（株）土木部長）が語っている。

(2) 続いて始まった一ツ瀬水力計画（アーチ・ダム）では、青木謙三は設計班のリーダーとして活躍し、昭和35年2月ダム工区の主任として現場に赴き、ドーム型アーチ・ダムの設計、施工に寝食を忘れて取り組んだ。このときに体験したダム基礎岩盤の調査方法や処理対策をもとに「一ツ瀬アーチ・ダム基礎に関する諸測定並びに基礎の安全性に関する研究」にまとめられ、昭和37年九州大学から学位を授与された。論文は日本の近代ダム技術の発展に輝かしい功績を残したと評価された。

(3) 一ツ瀬ダムが完成し湛水を見届けると、昭和38年5月から2年余り（社）海外電力調査会にその技術と見識を評価され、南米ポリビア

国、他の水力プロジェクト調査のため出向した。
(4) また、昭和42年に創立間もない建設コンサルタントの西日本技術開発(株)にも出向し、発展途上にあった同社を軌道に乗せることに大きく貢献した。

(5) 昭和45年に本社に移り、昭和46年土木部課長、昭和52年に理事・土木部長、昭和58年に常務取締役役に就任。昭和62年に退任した。

(6) この間、大平、天山の2揚水発電所、10ヶ地点の一般水力の開発をはじめ玄海、川内の原子力2ヶ地点、大容量の火力8ヶ地点の建設を進めた。水力では大平揚水の水圧鉄管への高張力鋼の採用、天山揚水の上部調整池として山腹における人口湖の造成など技術的に困難な問題に直面したが、青木謙三は率先して専門委員会を組織するなどして、社外の英知も導入しながら課題を一つ一つ克服していった。

(7) 原子力では、安全性が厳しく問われた発電所基礎の調査とその評価方法について厳しく指導し技術の高度化を目指した。

(8) 火力関係では、外海に面した石炭火力の構造物の設計、施工上の技術問題、大深度砂層上の埋立地に立地したLNG火力の構造物の基礎処理技術などで九州電力としては、新しい技術課題であったから、幅広い情報収集を指示し、技術の組合せ方を指導するなど、電力分野の土木技術の発展に大きな実績を残した。

(9) 青木謙三は、九州電力退任と同時に西日本技術開発(株)の社長に就任し、創立当初に手塩にかけた同社の総帥として、コンサルタントの社会的地位安定のために、格別の情熱を傾け、事業の発展を図った。

(10) また、社外においても日本大ダム会議の専門委員、土木学会西部支部長、電力土木技術協会理事、建設コンサルタント協会の九州支部長などの要職を歴任し、関係方面から厚い信頼を得て、土木界の発展に尽力した。

(11) 青木謙三は仕事の面では非常に厳しく、技術的に最大限の努力をしてないと承認しなかった。しかし、厳しさの中に愛情があり、部下から信頼と感謝の気持ちを持って慕われたと長年部下であった原欽五氏が語っている。(青木謙三氏のご逝去をいたむー電力土木技術)

(二) 私の青木謙三観

九州電力にアーチダムの上椎葉、一ツ瀬、大平、天山の大揚水発電所の設計、施工を手掛け、さ

らに大容量火力、玄海、川内の2原子力発電所の建設を完成させた土木の大家として早くから電力土木界に著名であった青木謙三と直接、間接に土木部長会議等にお遇ひして、田代副社長等とともに、多大の御指導、御指示を受けて、北陸電力の水力、火力、原子力の設計、施工に多大の恩恵を蒙った事を思い出して、心から多年にわたる感謝の念をこめて本文を終わる。

(5) 三村 誠三



(イ) はじめに

東京電力の三村誠三、佐藤友光、藤井敏夫の3氏をまとめるにあたり、東京電力(株)高辻哲建設部長ほか関係者並びに御家族の方に資料、写真等をお願いし、それと電力土木人物銘々伝(第10章東京電力)を参考に取りまとめた。お世話になった高辻哲建設部長等、東京電力(株)の関係者と、御家族に心から感謝致します。

(ロ) 三村誠三の年譜

大正10年4月1日新潟市に出生
昭和18年3月 東京大学工学部 土木工学科卒
昭和18年4月 日本発送電(株)に入社
昭和18年4月 日本発送電(株)関東支店土木部水路課勤務
昭和26年5月 東京電力(株)に引継入社建設部発電計画課勤務
昭和27年4月~28年9月 合衆国開拓局で1年余ダム技術を研鑽
昭和29年4月 奥根水力建設所土木課長(須田貝、藤原、上牧建設)
昭和35年10月 建設部水力調査課長(梓川開発計画)
昭和37年5月 建設部土木課長

昭和40年 9月 梓川水力総建設所第2建設所長
 昭和41年 5月 梓川水力総建設所第1建設所長
 昭和45年12月 高瀬川水力総建設所長
 昭和46年10月 高瀬川水力総建設準備事務所長
 昭和47年 5月 建設部長
 昭和52年 6月 取締役建設部長
 昭和55年 6月 常務取締役立地総合推進本部長
 (原子力・火力の電源立地指揮)
 昭和57年 8月 61才で逝去

(6) 佐藤 友光



(ハ) 三村誠三の業績と人となり

三村誠三は、東京電力(株)建設部の幹部として、奥根川水力建設所、梓川水力第1建設所長、及び第2建設所長、高瀬川水力総建設準備所長として設計、現場管理、現場指導にさらに各所の技術開発に新機軸を発揮すると共に、建設部長取締役、常務取締役、立地総合推進本部長として、水力及び原子力、火力の電源立地の指揮をとり一生を電力土木に捧げた後、現職で歿した。誠に残念である。

三村誠三の電力土木の功績はさらに東京電力(株)の土木陣の後輩に引き継がれ、10電力会社の先達として、現在の水力、火力、原子力さらにクリーン・エネルギーの開発へと日本及び世界のエネルギー業界に貢献している事を思うと三村誠三の功績を改めて思いかえしている。海軍時代の同輩、学友、登山仲間など人間関係を終始大事に育てられ豊かな人柄で広い交友を続けておられたと後輩の方が語っておられる。

(ニ) 私の三村誠三観

10電力業界の指導会社、東京電力(株)の建設部長として、全国電力会社建設部長会議等で長年お目にかかった筆者は水力、火力、原子力、特に能登原子力と同時に計画されていた東京電力(株)の柏崎原子力の事で漁業補償、用地補償、港湾計画、立地計画等について三村誠三に直接、間接に指導を受け、先発の福島第1、福島第2等の施設の見学等をお願いした事を今思い出して感謝の念にたえない。さらに梓川水力、高瀬川水力、奥根川水力等、大ダム、水力開発について見学等させていただき新技術の拾得に協力していただいた事を思い起こしており、同年齢の先輩として、その人物、技倆、技術に心から敬意を表し、御冥福を祈る。

(イ) 佐藤友光の年譜

大正12年 6月 8日 山形市に出生
 昭和22年 9月 東京大学工学部土木工学科卒
 昭和22年10月 日本発送電(株)入社
 関東支店土木部水路課勤務
 昭和26年 5月 東京電力(株)へ引継
 建設部発電計画課勤務
 (切明・奥根開発に従事)
 昭和36年 4月 鬼怒川水力建設所土木課長
 (川俣、栗山、鬼怒川、塩谷建設)
 昭和39年10月 建設部土木課長
 昭和41年 5月 梓川水力総建設所第2建設所長
 昭和44年 6月 効率部長代理
 昭和47年 5月 高瀬川水力総建設所長
 昭和54年 6月 建設部部长
 昭和55年 6月 送変電建設本部副本部長
 昭和56年 4月 常任監査役 現在に至る
 平成3年 6月 東京電力(株)退社
 東光電気(株)取締役社長
 平成8年 6月 同社取締役会長
 平成10年 6月 同社相談役
 平成12年 6月 同社退任

(ロ) 佐藤友光の業績と人となり

切明・奥根開発及び鬼怒川水力建設準備事務所土木課長、梓川水力第2建設所長、建設部部长、送変電建設本部副本部長を歴任、現在常任監査役として御活躍中である。特に、鬼怒川、梓川水力第2建設所長、建設部部长、送変電建設部本部長等 ダム送変電等に新しい技術開発に努力し、現在常任監査役として、東京電力(株)の総目付としての御活躍後は東光電気(株)社長、会長等をつとめ御立派な業績の成果と思い

拍手を送りたい。

(ハ) 私の佐藤友光観

全国の電力会社の土木建設部長のトップとして指導力を発揮された功績と幅広い見識と実行力を十分に発揮された後常任監査役として、東京電力(株)会社の運営に力を致しさらに東光電力(株)の社長、会長として御活躍した姿を思うと思わず拍手を送りたい。特に鬼怒川水力、梓川水力第2建設所長、建設部部長として、新技術開発に努力された姿を見学させていただき、北陸電力の水力、火力、原子力の開発に勉強させていただいた御恩を改めて思い起こし感謝に堪えない。益々の御健闘を祈る。

(7) 藤井 敏夫



(イ) 藤井敏夫の年譜

大正15年 5月31日 群馬県で出生
昭和24年 3月 東京大学工学部土木工学科卒
昭和24年 4月 日本発送電(株)入社
同社電力技術研究所勤務
昭和26年 5月 東京電力(株)引継箱島水力建設所勤務
昭和27年 4月 奥利根水力建設所勤務(須田貝ダムへのフライ・アッシュ・コンクリートの採用、仮締切アーチ、ダムの実験に取り組む)
昭和31年 3月 建設部土木課勤務(梓川開発計画、アーチ、ダムの計画設計)
昭和41年 5月 梓川水力第1建設所土木課長(東京電力初めての大アーチダムである。奈川渡ダムの完成に全力をそそぐ)
昭和45年 6月 建設部土木課長

昭和46年11月 高瀬川水力建設本部副本部長代理
昭和48年 4月 工学博士(東京大学)
昭和48年 4月 建設部長代理
昭和52年 6月 原子力建設部部長(土木建築担当)
昭和54年 6月 原子力開発本部部長(土木建築担当)
昭和55年 6月 建設部長
昭和56年 6月 理事建設部長
昭和58年 4月 取締役建設部長担任
平成3年 6月 東京電力(株)退任
常磐共同火力(株)社長
平成4年度 土木学会会長
平成7年 6月 同社顧問
平成8年 5月 (社)日本大ダム会議会長及び
日本コンクリート工学協会会長
平成11年 6月 75才で逝去

(ロ) 藤井敏夫の業績と人となり

奥利根水力建設所時代の(須田貝ダムへのフライ・アッシュ・コンクリートの採用、仮締切アーチダムの実験)等の新技術開発、梓川水力第1建設所土木課長時代の(東京電力初めての大アーチダムである奈川渡ダムの完成)等、アーチ、ダムにおける技術開発と、さらに、高瀬川水力建設本部副本部長代理、原子力建設部部長、建設部長としての御活躍は目を見はるものがある。特に水力開発、原子力開発の新技術開発については、東京電力のみならず全国の電力会社、世界の電力界が目を見張る程の立派な技術開発を成し遂げた。業績は特筆に値する。

(ハ) 私の藤井敏夫観

水力開発、特に大アーチダムの設計建設、原子力の建設についていろいろ指導をいただいていた事を今改めて思っこの文章を書いている筆者である。いろいろの御指導有難うございました。



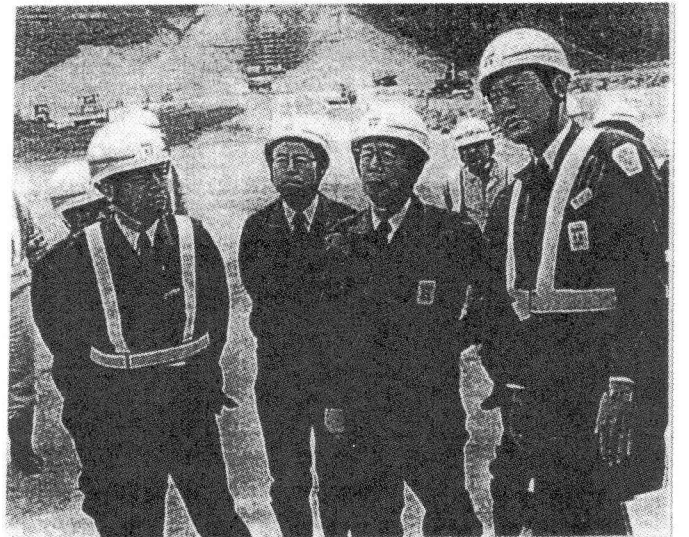
今市発電所現場視察(昭61年)



葛野川発電所ダム(平成8年)



今市発電所上部ダム(昭61年)



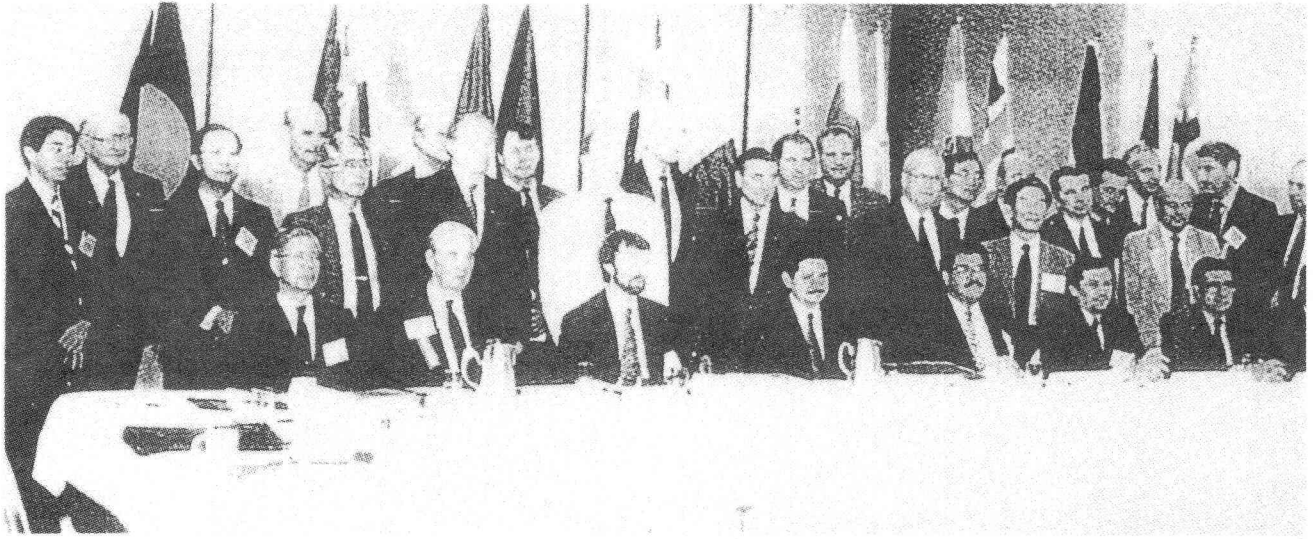
葛野川発電所上部ダム(平成8年)



今市発電所下部ダム(昭61年)



葛野川発電所下部ダム(平成8年)



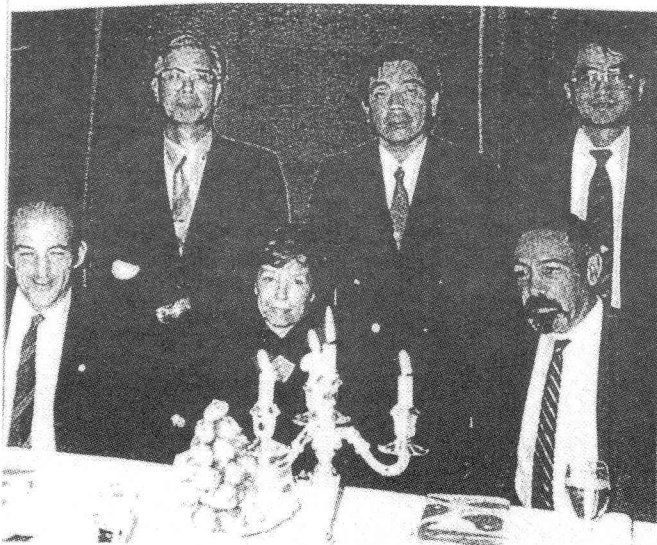
米国土木学会 (1199年度A.S.C.E全国大会) ニューヨークにて



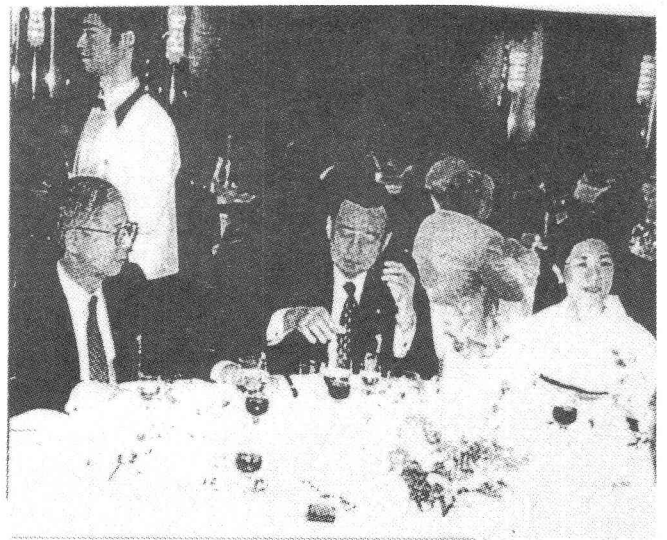
米国土木学会担当理事歓迎会 (東京) 平成5年2月



国際岩の力学会議 (スペインにて) 昭和63年9月



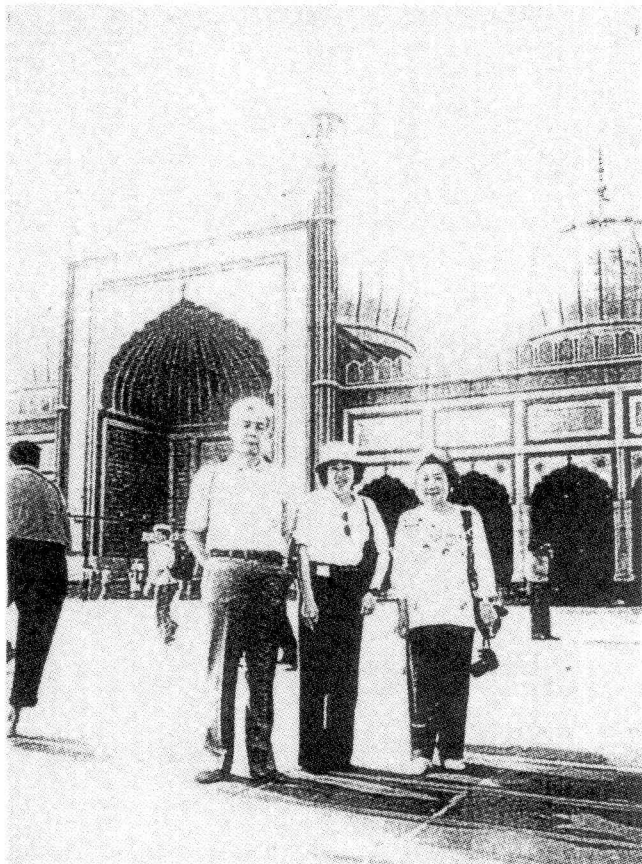
国際岩の力学会議 (スペインにて) 昭和63年9月



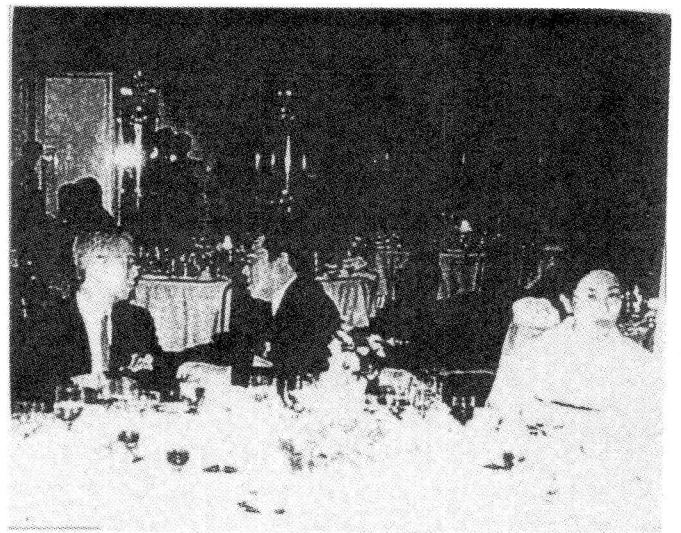
国際岩の力学会議 (スペインにて) 昭和63年9月



国際大ダム会議（インドにて）1998年



国際大ダム会議（インドにて）1998年



国際大ダム会議（インドにて）1998年

(IV) 電力土木人物史のまとめ

以上、各地域及び勤務先別に取りまとめると、次表の通りである。現在57名であるが引きつづき60名とりまとめて完とする予定である。

| | 地域別及び勤務先別 | 氏 名 |
|---|------------|---|
| ① | 通 産 省 関 係 | (目黒 雄平) (渡辺 時也) 市浦 繁 畠山 正 野田 和郎 |
| ② | 日 本 発 送 電 | 内海 清温 大西 英一 (石川栄次郎) (永田 年) (平井弥之助) (大石 勇) |
| ③ | 電 源 開 発 | 伊藤 令二 永田 年 浅尾 格 吉田 勝英 (野瀬 正義) 村上 省一 福田 克彦 前田 実 |
| ④ | 電力技術研究所 | (大西 英一) (平井弥之助) 畑野 正 田中 治雄 |
| ⑤ | 北 海 道 電 力 | (永田 年) 岩本 常次 大橋 康次 |
| ⑥ | 東 北 電 力 | 北松 友義 平井弥之助 後藤 壮介 矢崎 道美 吉田 栄延 山家 義雄 |
| ⑦ | 東 京 電 力 | 知久清之助 (永田 年) 水越 達雄 三村誠三 佐藤 友光 藤井 敏夫 |
| ⑧ | 中 部 電 力 | 石川栄次郎 高桑鋼一郎 藤本 得 渡辺 時也 |
| ⑨ | 北 陸 電 力 | 鵜飼 孝造 和沢 清吉 大林 士一 (市浦 繁) 金岩 明 高橋 建 |
| ⑩ | 関 西 電 力 | 目黒 雄平 野瀬 正義 吉田 登 東 正久 丸山 二郎 |
| ⑪ | 中 国 電 力 | 山本 三男 味埜 稔 村田 清逸 泉 悟策 原 文太郎 |
| ⑫ | 四 国 電 力 | (浅尾 格) 山田 勝則 志波 勉 小沢 章三 山下 嘉治 喜多 梅記 豊嶋幸次 |
| ⑬ | 九 州 電 力 | 熊川 信之 中村光四郎 田代信雄 青木 謙三 |
| ⑭ | コンサルタント関係等 | 久保田 豊 (内海 清温) (熊川 信之) (中村光四郎) |

(V) 終りに

本編を取纏めるにあたり御家族、電力会社、会社等の多大なる御支援をいただき、履歴書業績、人となり等に関する資料の提供をうけた事について、心から感謝申し上げます。(以上)